



- ・あいさつで心通わす
- ・全力を出し切ってがんばる
- ・お互いを支える思いやりをもつ
- ・自分の友だちの命を守る



子どもにとって「学んでよかった」学校 保護者、地域にとって「預けてよかった」学校。信頼のおける学校をめざして。

## 蛍が夜空を美しく舞いました・・・



6月1日(土)に高槻まちづくり協議会主催のもと、高槻ほたる祭りが行われました。

市民センターでは、昼過ぎから多くの方がボランティアで集まり、忙しく準備を進められていました。開会式前には、市民センター前で子ども神輿が行われ、近隣の幼稚園児や本校の子どもたちも、手作りの神輿を担ぎ、町内を練り歩きました。市民センター内では、民謡やおどり、学生によるファッションショーやダンスなど、にぎやかに、また楽しく過ごさせていただきました。

昨年11月に5年生(現在6年生)が、槻田川に飼育した蛍を放流しましたが、その蛍たちが、成虫し、夜空を光で輝かせてくれました。なんとも幻想的な槻田川の風景でした。今年も、池田さん指導の元、5年生たちが蛍の飼育に取り組みます。また1年生たちは、蛍がどのようにして育っていくのかを、池田さんや梶栗さんからお話を聞く機会をもち、学びます。

高槻の自然は、この高槻のまちの財産です。地域の方々と一緒に、子どもたちと、高槻の自然を守っていききたいですね。



## たてわり活動開始ーみんなで仲良く、楽しくー



本校では、特別活動の一環で、たてわり活動を行っています。単級で1学級しかない学年活動を、広く深く広げるために、1年から6年生までのたてわりグループをつくり、年に数回、特別活動の時間や休み時間を活用して、活動を行います。6月5日水曜日に第1回目のたてわり活動を行いました。それぞれが自己紹介をしたのち、6年生が中心になって、ゲームやクイズを行いました。

新聞じゃんけんゲームを行っていたグループの1年生は「おもしろかった。6年生だけでなく、みんなやさしかった。」と、嬉しそうでした。また、4年生は「日頃あまり話さないほかの学年の人たちと、楽しくゲームができてよかった。またやりたい。」と、話していました。他学年との交流で、より一層高槻っ子の絆が強くなりそうです。



## 境界線ってなに？

6月6日木曜日、5、6年生を対象に、「性暴力対策授業」を行いました。講師に性暴力対策アドバイザーの末續さんに来ていただき、SCの窪田先生にもフォローしていただきながら、学習しました。自分を守るために知っておきたい「境界線」のことを中核にお話ししていただきました。

境界線とは、自分を守るための、見えないバリアのようなものだと言われました。体の境界線(自分の体は自分のもの)持ち物の境界線(人のもの、自分のもの)気持ちや考え方の境界線(自分の気持ちはどんな気持ちももってよい。何を大切にするかは自分で決めてよいのだ)と、様々な境界線を、実体験や例を挙げてわかりやすくお話していただきました。いろいろな境界線がある中で、「性の境界線」が守れなかった時、性暴力にあった時には、①いやだとはっきり言う②逃げる、その場を離れる③味方になってくれる大人に話す。一人で悩まない。を、丁寧に話していただきました。

① 境界線は自分を守る、相手を守る透明バリア。②自分の「境界線」のピンチに気づく。③「境界線」を超えるときは、言葉で互いの気持ちを確かめ合おう。④性暴力にあったときは、味方になってくれる大人に話そう。自分の体は自分のもの。自分の心も自分のもの。と、伝えていただきました。どの子ども真剣に話を聞いていました。今日の学びを今日で終わるのではなく、今日の学びを、いつも意識して、子どもたちには「自分の体。自分の心。」に向き合ってほしいと願っています。